

# 令和2年度 学校評価書

学校名: 静岡市立高等学校

## I 経営の重点に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から		
1	学校教育目標	「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。	自己評価	学校関係者評価委員会から		
2	重点目標 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。	(1)授業、部活動、家庭学習時間の確保	①部活動において、各生徒が目標に向かって自己有用感を高める活動ができています。【生徒課】 【学校説明】各部活動が積極的に取り組み、部活動を通して自己有用感を高める貴重な時間となっている。全国的に感染症が拡大し、大会やコンクールの中止、合宿・練習試合などの制限がある中、与えられた環境で努力する姿や工夫が見られた。	A	A コロナ禍でも教職員と生徒の連携の下、成果を挙げていると思う。大会等がなくなった3年生も、大切な資質が育っている。努力・工夫をした点を明確にしたい。	
		②「帰宅時間調査」を年2回実施し、午後7時半までに学校敷地外に出る生徒の割合が前年比増となることを目指す。【教務課】	【学校説明】「帰宅時間調査」を6月・10月に実施した。午後7時半までに学校敷地外に出る生徒の割合は前年に比べ4%程度増加した。	A	A 帰宅時間は部活動に左右されている。調査をして生徒に伝えることは大切。「下校時間」と「帰宅時間」の差が気になる。	
			③授業評価アンケートにおいて「主体性・視野の広さ・自己有用感」が身についたと感じる生徒が、昨年度に比べて増加する。【研修課】	【学校説明】授業アンケートにおいて「よくあてはまる(十分に身についた)」と回答した生徒の割合を前期と後期で比較すると、主体性が24.2%→27.6%、視野の広さが23.2%→26.5%、自己有用感が15.9%→19.9%になっており、いずれも「力が身についた」と自己評価する生徒の割合が増加した。	A	A 生徒は「視野の広さ」、「自己有用感」をどのように理解しているのか。数値の変化を見るだけでなく、詳細な分析が必要。
			(2)地域や保護者に関わられた学校づくりの推進	①PTA研修会の参加率を5%程度増加させる。PTAが関係する行事のホームページへの記事掲載を5回以上行う。【総務課】 【学校説明】PTA校外研修会(大学訪問)はコロナウイルス感染防止のため、中止となった。同校内研修会(講演会)の参加者は25名で、コロナウイルスの影響からか、若干減少した。ホームページに例年掲載しているPTA関連行事は、ほとんどが中止となった。	B	B コロナ禍で活動できなかったと思うが、学校とPTAとの関係は非常に良好。保護者から情報を集め、整理して発信することも必要か。
		②広報関連の発行物を適切なタイミングで作成する。本校Webページのアクセス件数を、毎月の平均が最低1,300(昨年度最低は7月に1,253)以上となるよう、内容が充実したサイトにする。【情報課】	【学校説明】学校案内、授業公開リーフレットなど、適時発行できた。本校Webページについては、目標を大きく上回る数のアクセス数を実現できた(今年度のアクセス平均数は1日あたり2,181件であり、過去最高の回数であった)。	A	A Webページは非常に充実している。市民への広報活動も充実している。重要な情報ツールとしてWebサイトが役割を果たした。開かれた学校への情報発信に工夫が見られる。新しい情報をタイミングよく発信してほしい。	
			(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。	①昨年度と比較して、勤務時間が減少した、又は適正であるとする教員が50%以上。【管理職】 【学校説明】アンケートでは時間外業務を削減できた教員は25%に留まったが、それぞれの教員が、個々の業務に合わせて、時間外勤務を削減する工夫に努めた。また、年休や振替等が取得しやすい職場の雰囲気づくりや声掛けをしたり、制度の説明を丁寧に行った。	B	B 教職員の方々は勤務時間について、実際はどのように感じているのだろうか。コロナ対策で校務がさらに多忙であったことと推察する。
			②広報関連の発行物を適切なタイミングで作成する。本校Webページのアクセス件数を、毎月の平均が最低1,300(昨年度最低は7月に1,253)以上となるよう、内容が充実したサイトにする。【情報課】	【学校説明】学校案内、授業公開リーフレットなど、適時発行できた。本校Webページについては、目標を大きく上回る数のアクセス数を実現できた(今年度のアクセス平均数は1日あたり2,181件であり、過去最高の回数であった)。	A	A

## II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から				
1	教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	①普通科特進、普通科一般、科学探究科、すべてのクラス対象に朝課外を毎日行う。年間4回の進路検討会を企画・実施する。【進路課】 【学校説明】学校再開後の6月頭から、すべてのクラス対象に朝課外を行うことができた。また進路検討会については4月に昨年度の入試分析会、9月に全生徒の志望校の現状把握、12月に私立大学の出願検討会を行った。1月末に、大学共通テストの結果を踏まえ、国公立大学の出願検討会を行う予定である。	A	A コロナ禍で生徒の学力向上のために大変な苦勞があったことと思う。その中で予想以上に好評だった取り組みについて、分析・評価に期待する。朝課外について、すべてのクラスが対象になっていることはいいことである。			
2	生徒指導	(1)一人一人を大切に した指導 【市共通項目4】	②学習習慣の定着や学力向上に関する学年の取組 ・スタディーレコードの集計を行い、家庭学習時間が平日2時間以上、休日4時間以上となるようにする。また、課外授業への積極的な参加を促す。【1年部】 ・スタディーレコードの継続的な実施及び集計結果の提示をする。家庭学習時間が平日は平均3時間以上、休日は5時間以上となるようにする。学期末成績での優良者数が30名以上となるようにする(昨年度末25名)。【2年部】 ・受験生としての学習サイクルの早期確立を実現する(特に部活動引退後)。スタディーレコードを継続的に実施し、正副担任による各学期1回以上の面談を実施する。【3年部】 【学校説明】[1年部]夏までの家庭学習時間は、全体としては平日休日とも概ね目標時間に達した。生活習慣が安定している者は、課外授業への参加も見られた。部活動と両立を図りながら、学年が上がっても学習時間の上積みができるよう指導していきたい。	A	A 各学年の教職員の方々は、コロナ禍でも充実した学校生活を送れるように苦勞されたことと思う。特に、1年生が入学後に培われるはずの人間関係等にもどのような影響を与えているのか気になる。部活動等との両立を目指しながら、すべての学年が家庭学習時間の目標を達成できるように取り組んでほしい。			
			③年度当初および「授業アンケート」実施の際にシラバスを活用する。【教務課】	【学校説明】研修課が実施した「授業アンケート」(年2回)の際に、シラバス(年間指導計画)を用いて質問項目に回答するよう生徒に呼びかけをした。	A	A 授業アンケートは定着してきている・目標の提示と評価の流れの中でシラバスを分析するなど、共通理解が必要。		
			④新着情報や生徒による図書委員会の活動を通じて図書館利用を呼びかけ、利用者を増やす。【図書課】	【学校説明】図書委員会による図書館ニュースは紙面のレイアウトを一新しより充実した内容となった。新型コロナウイルスに伴う休校期間があったにもかかわらず、昨年並みの貸し出し数があった。	A	A 固定的な図書館像にとらわれずに模索することの大切さを感じている。今後の学校教育で「活動する場」として図書館の果たす役割は、ますます大きくなる。読解力が求められる。		
			(2)道徳教育の充実 【市共通項目2】	①福祉委員会や各部活動を中心に、ボランティア活動等に積極的に参加を促す。【生徒課】 【学校説明】本年度はボランティア活動の制限が多く、実施可能な場面は少なかった。	B	B コロナ禍で日本社会の多くの問題が明らかになった。社会の中に道徳教育の教材は多くある。		
			(3)特別活動の充実 【市共通項目3】	①生徒が目標に向かって自己有用感を高める活動ができています。【生徒課】 【学校説明】本年度、文化祭や球技大会等の学校行事が中止や延期となる中、毎日の生活や限られた行事の中で、自己有用感を高める活動ができています。	A	A コロナ禍でも積極的に活動できた。多くの生徒は自分を肯定的に評価しているが、「自己有用感が高い」と認識できているかどうかは疑問。		
			(1)一人一人を大切に した指導 【市共通項目4】	①いじめをゼロにする。【教育相談室】 【学校説明】いじめをゼロにする、という目標は達成できないが、生徒の相談からいじめの可能性等について気づき、担任や学年、生徒課と連携して働きかけをすることができた。	B	B 教育相談は充実している。他者との関係性が希薄な中で、「いじめ」よりも「不安感」による内向が気になる。		
			3	進路指導	(1)進路指導の充実	②より良い振る舞いが、習慣化されている。【生徒課】 【学校説明】清々しい挨拶や振る舞いが、定着しつつある。	A	A 「挨拶」は人間関係の基本。一つの取り組みから広がりが期待できる。
						①年度当初に5教科の初期指導を実施する。出張授業や学部学科説明会では、国公立大学10大学以上にオファーを出して実施する。【進路課】 【学校説明】初期指導については昨年度までの英語、国語、数学だけでなく、理科、社会についても今年度は行うことができた。ただそのすぐ後に休校期間に入ってしまったため、効果が薄れてしまったと思われる。また新型コロナウイルスの影響もある中で、オンラインでの講座を含め、計21の国公立大学に講義や説明会を開いていただくことができた。	A	A コロナ禍と新たな共通テストのため、準備の業務に苦勞があったことと思う。希望生徒が全員無事に共通テストを受けられたこと自体が、大きな成果である。時間の制約もあると思うが、できるだけ多くの情報を提供してほしい。

3 進路指導		②予備校・各社主催の研究会に、3年部職員は年間2回以上参加し、担任会などで内容の報告をする。【進路課】	A		コロナ禍により進路目標がどのように変化したか、分析を期待する。従来より、都市部への過度の人材流出について疑問を感じている。得た情報を担任会などで水平展開していることは評価できる。
4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築【市共通項目5】	①無事故・無違反を達成する。【生徒課】	B		小さな事故が大きな事故につながる。継続的指導をお願いしたい。
		【学校説明】これまで大きな事故がなく登校できているが、小さな事故や自転車違反は報告されている。継続した指導が必要である。			
		②生徒の安全を最優先に考え、施設・設備等の定期的点検及び不具合箇所の早期対応を図り、生徒が安心して学校生活を送るための環境整備を行う。【事務室】	A		安心・安全の確保のため、継続的な環境整備の取り組みをお願いしたい。
		【学校説明】各施設・設備の点検等を計画通り実施するとともに、効率的な予算執行により不具合箇所の修繕に努めた。また本年度はコロナ対策として国の補助金を活用し、衛生環境の向上を図った。			
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実【市共通項目6】	①各行事や保健・整美・校庭美化委員会活動を主導する。【保健環境課】	A		心身の健康自己管理能力はますます大切になる。緊張状態の後に来る心身のバランスの崩れを心配する。
		【学校説明】例年とは違う環境の中、委員会で決められた常時活動や行事毎に関わる仕事に対して、保健・整美・校庭美化委員会の各顧問（保健環境課員）が主導し指導することができた。生徒も仕事が滞ることなく活動した。			
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進【市共通項目7】	①様々な生徒情報を扱いに注意しつつ共有し、生徒への支援に活用する。情報連絡会や事例検討会を必要に応じて迅速に実施し、内容を記録して関係者に回覧し共有する。【保健環境課】	A		個々の生徒により、情報の集まり方やそれに伴う連携のあり方が異なる。多様な事例研究の積み重ねが必要。多様な目線を持つことが期待される。支援と指導の共通理解に期待する。
		【学校説明】生徒の出欠の状況や心身の変化について、継続的かつ深く把握し、情報共有を適切に行うことができた。教育相談・保健室・SC・学年部・生徒課等が連動し、情報を活用して個々の生徒の指導・支援の深化が図れた。情報連絡や事例検討も組織的に実施することができた。教育支援の記録や現状は、関係者に回覧し共有できた。教育相談室主導の事例検討会も開くことができた。			
7 組織運営	(1)組織・運営の改善【市共通項目8】	①組織的・協働的な教育活動に取り組む教員が全体の80%以上。【管理職】	A		共通理解の下で諸々の教育活動に取り組んでいることがうかがえる。
		【学校説明】本校が目指す育成したい3つの資質に関連付けた「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置いた授業改善に96%の教員が取り組み、組織的・協働的な教育活動としてのSSH事業に96%の教員が前向きに取り組んだと肯定的に捉えている。			
8 研修	(1)研修体制の充実【市共通項目9】	①新教育課程案を編成し、提出する。【教務課】	A		新しい教育課程編成に際しては、各教科からの要望をバランスよく調整することが大変であったと思う。探究活動をどのように位置づけたのか。
		【学校説明】教育課程検討委員会を開催し、各教科の要望を調整した上で、新教育課程案を編成し、11月末に静岡市教育委員会に提出した。			
		②年度末に学校経営構想の到達度に関するアンケートを実施し、当該項目（8-②）において70%以上の教職員から「達成した」の回答を得られるようにする。【研修課】	A		職員室等の会話が少なくなり、若い教員が反芻する機会も減っている。教科研究室等での教員間のやりとりは必要。自由に教育活動に関して話ができる場をつくるのが大切。
		【学校説明】「職員研修の充実による、職員の視野の広さの醸成及び学校改善の円滑な遂行」に関する教職員アンケートで、「達成した」31%、「概ね達成した」65%、「あまり達成されていない」4%の回答を得た（回答数49）。			
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進【市共通項目10】	①期限を決めてタスクを管理し、各グループで実行の度合いを測定する。測定の結果を年度末の振り返りシート及び学校評価書に反映させ、外部委員より評価を受ける。【研修課】	B		業務量が多くなったのではないと思うが、「振り返りシート」はよくまとめられていると感じる。
		【学校説明】「主体性・視野の広さ・自己有用感」を基に各グループの目標を立ててもらい、それを共有することはできたが、振り返りシート及び学校評価書には十分に反映させることができなかった。			
		②地域防災訓練への参加者数を、5%程度増加させる。【総務課】	B		従来より、3年生の模試と日程が重なるのが気になっている。各地域への防災訓練には、積極的に参加させてほしい。
		【学校説明】昨年度は1、2年生で411名の参加があった。今年度はコロナウィルス感染防止のために多くの地域で訓練が中止となるか、児童・生徒の参加不可で訓練を行う地域がほとんどであり、参加者はごくわずかであった。			
10 施設設備	(1)リサイクルや省エネの推進	①古紙リサイクルの更なる推進を図るとともに、可燃・不燃ごみの分別の周知、徹底をする。省エネについては、普通教室照明の計画的なLED化を進めていく。【事務室】	A		ごみの分別は社会に出てからも必要なことから徹底的にやるべき。
		【学校説明】「ごみの分別」については、定期的呼びかけ、周知を行いリサイクルへの意識啓発にも努めた。LED化については本年度は職員室を交換したため、普通教室はスポットでの交換のみとなったが、来年度以降も進めていく予定である。			
	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①SSH研究成果報告会後のアンケートにおいて「年間の探究活動が充実していた」と回答する生徒が70%以上にする。独自アセスメントにおける科学的リテラシーの数値を向上させる。【科学探究科】	A		コロナ禍でも、教職員の指導の下で生徒たちが探究活動に取り組んだことはすばらしいと感じた。
		【学校説明】新型コロナウイルスによる休校等への対応を迫られる中においても、生徒が様々な角度から探究する機会を設定した。アンケートはSSH研究成果報告会の実施後に行う。独自アセスメントについては現在も研究を継続している。			
		②課題研究校内発表会において、研究内容に関連する評価の平均値を3.0以上にする。科学系コンクールでの受賞を2点以上とし、科学の甲子園で地区予選を突破する。【科学探究科】	A		生徒の自己評価と教員による評価のズレについて整理・分析し、今後に生かすことを期待する。
		【学校説明】探究プログラムⅡにおいて「実験用ルーブリック」による自己評価の記録をデータベース化して蓄積する取組を行い、どの項目においても数値が上昇した。1/30の発表会では「発表会用ルーブリック」で評価する。科学系コンクールは中止されるものも多く、1/20現在、受賞は1件のみである。科学の甲子園での地区予選突破は叶わなかった。			
		③独自アセスメントの実施結果を反映して、次年度に向けてアセスメントを改良する。SSH中間評価の結果を次年度以降の計画に反映させる。【科学探究科】	A		「地域への成果還元」は、普通科高校ではあまり考えられなかった視点である。国の要請とは別に、今後、どのような視点で取り組んでいくのかを明確にしたい。
		【学校説明】平成30年度から独自にアセスメントを開発し始めた。生徒への調査はまだ3回であり、今後も試行錯誤が続く。2年後の完成を目指す。中間評価では地域への成果還元のあり方が話題に上がった。静岡市立の高校ならではの還元のあり方を研究していく。			
		④「プログラムを通して気づきが得られた」と回答する教員を70%以上にする。少人数授業に対する生徒満足度を85%以上にする。【科学探究科】	B		普通科の生徒の質問が多くなってきていることは成果である。授業での質問が多くなることで、教員の教材研究や授業そのものにも緊張感が生じ、生徒たちが主体的に考えることにつながっていると考える。
		【学校説明】「SSHでの経験は、ご自身の授業に『習得・活用』に留まらない『探究』の学びを取り入れることにつながっていますか」の問いに対し、本校教員の58%が「つながっている」と回答した。今後もSSHを通じた授業改善を推進したい。少人数授業への生徒満足度（10月）は、1年（数90%、英85%、化88%）、2年（数68%、英68%、物83%、化100%、生86%、）であった。少人数授業の目的を教科担当者と再確認し、指導を依頼する。			

学校から 経営のまとめ(成果と課題)	
<p>・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、例年実施できていたことや予定していたことの多くが中止や規模の縮小といった方針を取らざるを得ない状況であったが、そんな中、可能な範囲で最善の方法を模索しながら教育活動を展開し、本校の掲げる目標を概ね達成できた。校外活動も大きく制限される中、様々な活動をオンラインで代替し、実際に対面で行うものほとんど遜色ない活動ができた。</p> <p>①第2期3年目に入った文部科学省指定のSSH事業では、生徒のみならず教職員もコロナ禍でできることを模索し前向きに取り組んだ。フィールドワークをオンラインで行うなどの工夫をした。また、年度末の成果発表会は校内のみでの開催となったが、普通科と科学探究科の生徒が互いに学びあう機会となった。</p> <p>②授業を始めとした学習活動や探究活動、部活動を通して生徒の自己有用感を高める教育活動を推進した。</p> <p>③新教育課程案を作成するとともに、全職員で授業改善に取り組んだ。また、観点別評価についての研修を行い、理解が深まった。</p> <p>④学校ホームページの更新や土曜公開授業日の中学生や保護者への学校説明をとおして、充実した広報活動ができた。</p> <p>⑤今年度コロナ禍で取り組んできた教育活動を整理・分析し、次年度の活動を行う上での材料とし、生徒にとってより魅力ある市高を全職員で作っていききたい。</p>	

学校関係者評価委員会まとめ	
<p>・コロナウィルス感染症防止のため多くの活動に制限が出てしまい、対応に苦慮したことと思う。新学習指導要領に沿った学習指導とSSHのさらなる発展に期待している。</p> <p>・コロナ禍で多くの教育活動が制限を受けた。今までは中止・変更を想定していなかった取り組みについても再考して、整理・分析をする機会である。また、ICTの活用を重視した教育が重視されている。課題に対して粘り強くデータを収集し、整理・分析して判断する「考え抜く力」が必要になってくる。普通科を含めたSSH事業の深化が、そのような力の育成につながる。他校にはない質の高い取組として期待している。</p> <p>・将来の職業生活に向けて、自分の強みや進みたい方向（キャリア）を見つけるためにも、SSHの学びを生かしてほしい。教育活動のさらなる定着と市高らしさの構築に期待している。</p>	